令和4年度　大田区立北糀谷小学校　自己評価　報告書

令和5年2月21日

○　本校の概要

○開校146周年を迎えた歴史のある学校である。学校規模は児童数298人（4月15日現在）、通常級は12学級で、難聴・言語障害学級を併設している。ここ数年、学区域外からの入学者が多く、児童数が増加している。
○平成30・31年度に東京都プログラミング教育推進校、令和元・2年度は大田区家庭学習研究推進校、令和2・3年度は大田区キャリア教育研究モデル校として研究の成果を発揮した。令和3年度に引き続き令和4年度も、文部科学省教育課程実践検証協力校としての役割を担っている。困難な状況の中でも、「学びの保障」とともに「楽しさの保障」を行う教育活動を実践しており、その実践は東京都や全国各地で紹介された。
○学校の課題は「基礎学力の定着と主体的に学ぶ意欲の向上」、「発達障がいや不登校など配慮を要する児童への対応」、「よりよい人間関係を築いていく力を身に付けさせること」である。研究テーマを「主体的に取り組む児童の育成～よりよい人間関係をつくり、「なりたい自分」をめざして取り組む児童を育てる～」として、キャリア教育を要にカリキュラム・マネジメントを行い魅力ある教育活動を創出している。今年度より、高学年は教科担任制(交換授業)を実施し、質の高い授業を目指す。「配慮を要する児童への対応」は、校内委員会「すくすく」を中心として関係機関と連携して組織的な対応に努め効果を上げている。
○地域や保護者は学校に大変協力的であり、地域の人材や環境を活用した様々な教育活動を展開している。学校・家庭・地域が一体となって、困難に立ち向かう風土がある。<合言葉は「行きたい学校・帰りたい家庭・住みたい地域」>

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3	児童アンケート「わたしは目標をもって学校生活に取り組んでいます」の質問に対し「あてはまる」または「だいたいあてはまる」と回答した児童が 4：90%以上 3：80%以上90%未満 2：65%以上80%未満 1：65%未満	4： 3： 2： 1：	4	●外国語教育指導員は児童集会活動にも参加し、楽しみながらコミュニケーションがとれるようにした。 ▲英語カフェや休み時間等に外国語教育指導員と交流する機会を増やしていく。 ●「おおたの未来づくり」の創設を視野に、近隣の工場との連携や、高学年は、ロボット・3Dプリンターを活用したプログラミングの学習を実践した。今後も地域・企業と連携を進めていく。低学年は図工科や生活科を中心に活動していく。 ▲プログラミング学習については、低学年も計画的に実施できるようにサポート体制をつくる。 ▲体育朝会では「マラソンタイム」と「なわとびタイム」を学年を分散して実施した。次年度、体育部会の組織を強化して体力づくりに取り組む。 ●行事ごと、学期ごとに「キャリア・パスポート」を書くことが定着した。各学年の発達の段階を考えたものとなっており、目標を明確にもって取り組むことができているので継続していく。 ▲ICTの活用事例に関する研修があったが、今後ICTを使った学習をよりよくしていくためにも教員がICT研修できる場の設定をしていく。	A	10	○キャリア教育の充実に期待している。 ○児童アンケートの回答で手ごたえを感じられる。 ○児童に影響が出ないよう、今後も教員が研修で学級を空ける際の体制づくりを確実に整えていただきたい。 ○グローバル化が進み、特に英語は国際共通語としてますます重要になってくる。受験を目的とした偏った教育ではなく、世界の人々とのコミュニケーションツールとして活用できるような教育となるよう期待する。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4					B	0	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3：80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2：60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1：60%未満であった。	4					C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4					D	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4							
		キャリア教育の充実を図り、学期末や学校行事後などに、「これまで」と「今」と「これから」をつなぐ「キャリア・パスポート」振り返りの活動をする。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4	児童アンケート「授業の内容がよくわかります」の質問に対し「あてはまる」または「だいたいあてはまる」と回答した児童の割合が 4：90以上 3：80%以上90%未満 2：70%以上80%未満 1：70%未満	4： 3： 2： 1：	4	●高学年の教科担任制は効果があった。来年度も実施する。 ●三者面談では、学習カウンセリングを児童一人一人に行うことができた。 ●本校では「チェックシート」は各学期末に周知することになっている。学期末毎に算数少人数担当より各担任にステップ学習の進捗状況を伝えることができた。 ●授業改善プランは作成後研修会を開き、授業観察で公開するなど、全教員に周知、実践を図っている。 ▲一人1台タブレットを活用してステップ学習やドリル学習等を朝学習や家庭学習で行う習慣が付いてきたが、学年・学級によって活用率に差がある。 ●低学年は、ひらがな・カタカナ・漢字と視写の活動が多く、その中で児童は根気よく頑張って取組めた。 ●図書委員会とも連携し、「家読」の期間には読書カードなどの取組ができた。 ▲読書に親しむためにも10月だけではなく、学期に1回ずつ読書月間（または週間）を設けることを検討していく。 ●授業に肯定的な回答が多かった。児童が「分かる」「できる」という実感を	A	10	○高学年の教科担任制は非常に良い取り組みだと思う。学級担任の負担軽減にもつながり、児童も質の高い授業を受けることができると思う。 ○授業内容を理解している児童が多いことは喜ばしいが、学力が定着しているかの知りたい。 ○朝読書は今後も継続して実施した方がよい。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	4					B	0	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	3					C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4					D	0	
		読書活動の充実や視写・聴写教材の活用などを通して、読み解く力・書き表す力の伸長を図る。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4							
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4	児童アンケート「わたしはクラスで安心して過ごしています」の質問に対し「あてはまる」または「だいたいあてはまる」と回答した児童の割合が 4：90%以上 3：8 0%以上90%未満 2：60%以上70%未満 1：60%未満	4： 3： 2： 1：	4	●糀谷中学校区の3校で取り組んでいる生活スタンダードの指導が各校で定着してきており、各教員が意識的に指導している。 ▲令和4年度の道徳授業地区公開講座を1回実施した。学期に1回、道徳教育の研修を計画的に実施していく。 ●学校生活調査結果は専科・難言教員との情報交換も行い、指導や対応に繋げている。 ●毎週月曜日の児童理解夕会や毎月の特別支援校内委員会、必要な事案に対し適時行うケース会議、難言教室におけるケース会議により、児童の諸問題について組織的に対応している。 ●スクールカウンセラーや、子ども家庭支援センター、サポートピアなど外部の組織とも連携をして対応している。 ●小中一貫の会では、糀谷中学校区の3校で不登校に関する情報を共有し、スムーズな進学につながるように努めている。今年度より未来学園との連携も行っている。 ▲マスク生活で挨拶にやや元気がない。挨拶キャンペーンの方法を工夫して実施する。（児童会と連携するなど） ●「いじめ見逃しゼロ」を心がけ、学期1回のアンケート調査、スクールカウンセラーとの面談等を行い取り組んできた。全校朝会での講話、年間3回いじめ防止の授業を実践した。 ▲児童が安心して過ごすためには教員の指導や言葉遣いが非常に重要で	A	10	○学校に行けない子供に対して、学校・家庭・地域などの周りの人が、その子の特性を伸ばせるように子供に合うことを見付けてあげることが大切である。 ○クラスで安心して過ごせる児童が100%になることを願う。 ○昨今、社会情勢が目まぐるしく変化する中、児童の規範意識を高める道徳教育は重要になってくると感じる。 ○利他の精神で、他人のために役立とうと思う心、思いやりの心をもって他人に尽くす心の醸成が大事になると感じる。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	2					B	0	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4					C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4					D	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4							
		不登校児童一人一人の対応策を立て、保護者や関係機関と連携し、改善に向けて組織的に取り組む。	4：「組織的に取り組めた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4	児童アンケート「体育や外遊びが好きです」の質問に対し、「あてはまる」または「だいたいあてはまる」と回答した児童の割合が 4：90%以上 3：80%以上90%未満 2：70%以上80%未満 1：70%未満	4： 3： 2： 1：	3	●「早寝・早起き・朝ごはん」や「正しい姿勢」「ゲーム依存症について」などの体育健康教育の学校としての取組については、保護者アンケートで100%肯定的な回答を得た。今後も継続していく。 ▲高学年を中心に、外遊びを好まない児童が増えている。意図的に外遊びをする機会を設け、積極的に体を動かす楽しさや大切さを伝えていく。 ●体育委員会の児童が、「外遊び週間」を計画し実行し、積極的に呼びかけていた。このような児童の主体的な活動を生かしていく。 ●食育については給食指導中に指導するだけでなく、年間指導計画を踏まえ、学級活動や道徳科、社会科など、教科横断的に進めていく。	A	9	○これまでの北糀谷小の子は、みんな外遊びが好きだったので、児童アンケートの結果が88%で驚いている。これからは、町会行事や外遊びができるようになってくると思うので、地域と学校が連携していく中で子供の心も体も成長し、数値が上がっていくのを期待している。 ○コロナ禍において家庭環境や生活習慣の変化する中、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践されている。健全な食生活は児童にとって生きることの源、そして、心と体の発達に大変重要であると思う。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4					B	1	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4					C	0	
		外部講師を積極的に活用し、スポーツや運動、健康教育に興味をもち、運動意欲を高める取組を推進する。	4：年度間に3回以上行った。 3：年度間に2回以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4	保護者アンケート「子どもは授業に意欲的に取り組んでいます」という質問に対し、「あてはまる」または「だいたいあてはまる」と回答した保護者の割合が 4：90%以上 3：80%以上90%未満 2：60%以上80%未満 1：60%未満	4： 3： 2： 1：	4	●キャリア教育モデル校として、「主体的に取り組む児童～よりよい人間関係をつくり「なりたい自分」を目指して取り組む児童の育てる～」をテーマに研究を行った。学級活動(1)を中心に研究を深めた。6年生の「未来・夢探検」は、NPOや企業との連携が定着してきた。 ▲これまでの研究実践を生かして、新設教科「おおたの未来づくり」を含めたカリキュラム・マネジメントした指導計画を作成し、効果的な教育活動を追究していく。 ▲指導教諭によるOJTは計画的に実施できた。主任教諭による校内OJTは十分とは言えない。系統的に継続性のあるOJTを年度初めに設定する。また、互いに授業を見合って高められる機会をもつ。(ICTを活用して会議を精選し、、年間6回以上研究授業を行う。) ●個々の教員の専門性やよさを生かした教科、他校の研究を共有し、授業力向上を目指す。 ●本校における特別支援校内委員会「すくすく」が毎月1回行われている。	A	10	○学校公開を見ると、授業の進め方に教員の個性を感じる。 ○教員の向上心をもって授業に取り組む姿勢は、研修のたまものであると理解した。 ○多角的・重層的な教育環境体制がなされていると思う。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					B	0	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4					C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	4					D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4	保護者アンケートで「家庭学習の習慣が身に付いています」の質問に対し、「あてはまる」または「だいたいあてはまる」と回答した保護者の割合が 4：85%以上 3：75%以上85%未満 2：60%以上75%未満 1：60%未満	4： 3： 2： 1：	3	●教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報については、適時ホームページに掲載している。学校の様子についても、各学年月1回以上、掲載できるようにしている。 ●学校評価に際しては、学校の取組が伝わるように留意して紙ベースで資料を作成した。次年度より、データにて保護者に配信することを今年度中に伝えていく。 ●学校支援地域本部と連携して夏の「わくわくスクール」を60講座開催できた。 ●生活科や社会科の学習で、地域の店や工場などに協力していただいた。 ▲家庭学習については、「家庭学習のすすめ」を配布し、保護者会でも話題にし、協力のお願いをした。家庭学習に意欲的に取り組めるよう全校で指導している。家庭学習についても、個別最適な支援ができるように家庭と連携していく。	A	10	○地域連絡協議会開催の際は、学校での様々な事柄を委員に対して丁寧に説明していただいている。 ○未来を担う子供たちに小学校・家庭・地域社会が一体となり取り組まれていることは評価する。 ○学校の情報は細かく提供されている。しかしながら、実際に見る機会は今年度も少なく残念だった。次年度に期待する。 ○夏のわくわくスクールについては、食べ物に関連するものなど、どこまでのことが実施できるか検討していきたい。 ○地域の公園での遊び方などで、特に危険を伴うものについては、地域・学校で協力して対応していきたい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	4					B	0	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					C	0	
		「家庭学習のすすめ」を発行し、児童に合った課題の提供や保護者への啓発を通して、家庭学習の定着を図る。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4					D	0	
		「ライフ＆ワーク バランス」を意識し、仕事内容を見直すとともに、効率よく仕事ができるようにする。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4	タイムシステムによる超過時間が1月平均30 時間以内である。 4：70%以上 3：60%以上70%未満 2：50%以上60%未満 1：50%未満		4	●教員支援員の協力により、ますます効率よく業務ができるようになった。 ▲超過勤務者が50%を超える成績提出時期と方法について、今後改善していく。			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。